

不離一体シート(同友会活動と会社経営は不離一体)

作成日 : 令和8年7月5日

会社名: 特定非営利活動法人アップル・シード 社員数: 24人(内、パート19人)
氏名: 成瀬毅 (地区) 守山 年商: 約82(百万円)
事業内容: 障害福祉

西暦	和歴	年齢	会内役職	三位一体の自立型企業づくり	気づき、学び(エポックメイキング・変遷の要)	会社の変化	社員数 ()内は P・A	売上 (百万)	備考
2011	平成23	33			瀬戸市内にあるしょうがい児者支援のNPO法人に就職。しょうがい児者のヘルパーとして活動を開始。				
2012	平成24	34							
2013	平成25	35							
2014	平成26	36			自閉症に関する翻訳・解説本『自閉症論資料集の試み』を出版する。中日新聞地元欄や地元FM番組で取り上げられる。これが独立の遠因となった。				
2015	平成27	37			前職を退職。すぐに約20才年上の「仲間」や旧友・知人とNPO設立総会を開き、法人認証までの半年弱を耐え忍ぶ。	H27.9.25、名古屋法務局に法人登記。この年はほぼ準備期間。登記上の「主たる事務所」も当初は自宅。			
2016	平成28	38			自分で考えて行動する喜びを謳歌する。と同時に、「互いに深入りしない」「無駄な残業をしない」「さっさと帰る」ことを暗黙の了解に、公私割り切った会社にした。	実質的な事業開始の年。4/1から初めての事業所「就労継続支援B型事業所ジョブ・シェアード」を瀬戸市美濃池町にオープン(定員20名)。当初から精神障害者への対応を期待される(ex.長久手社協)。	5 (2)	6.3	
2017	平成29	39			上記でうまく行ったかのようで、最初期のスタッフは定着し、ゆるく運営していた。	当初こそ成果については辛抱だったが、着々と利用者もスタッフも集まる。障害者雇用も試みる。	8 (4)	20.4	
2018	平成30	40	(「あいち経営フォーラム(11/20)」にゲスト参加)		精神科小説『動物園』上梓。また、地元インターナショナルスクール名古屋国際学園での「Creating Connections 2018」(愛知県大A.カールソン氏主催)にて「Representation of a Neuro-atypical Minority in a Japanese Pop Song」(英文)のスライド発表。	7/1からB型事業所と事務所を瀬戸市福元町の現住所に移転。障害者雇用も始めた。自分で障害当事者を雇ったことで、障害者向け就労支援の「光と影」をより考えるようになった。	8 (4)	26.4	
2019	平成31 令和元	41			発達障害者活動家の盟友・冠地情氏の推薦で地域精神保健福祉機構コンボ「こころの元気+」に記事掲載(「僕らの愛すべき、僕らを苦しめる心理原則を乗り越えるために」)。再び、「Creating Connections 2019」にて、「Another look at Autism」(英文)のスライドを発表。	この年、税理士・社労士と顧問契約。「餅は餅屋」痛感。GH運営を見据えて拡大への対応も企図して。4月からGH事業開始。グループホーム(以下GH)運営大変。誰も変化するが、「社会の物差し」で好ましく変わるとは限らない。「人格変容の成果主義」も大いに疑問。まず変わるべきは誰?	20 (16)	47.7	
2020	令和2	42			GH責任者兼任時代、シフト穴埋めで「代打バッテリー俺」的な機会増え、「ブレイクグマネジャー」について考えること増。	・1/1からGHを増やす(定員6名→11名) ・10/1からGHサテライト住居(1人暮らしの練習用住居)を追加(定員11名→12名)	23 (17)	63.0	
2021	令和3	43	同友会・守山地区入会(8月) (粥川チーム)	暫定経営指針書作成 (地区・支部で発表)	「会社の片腕」を必要と思い、若手の引き上げをはじめ(自分のために、会社のために、また本人のために)。また、「世間」との「新たな付き合い」が、はじまった。。	初期常勤職員が会社のお金窃盗で逮捕。初期パートも方向性の違いで辞職。立ち上げメンバーは私ともう一人の役員スタッフの2人。国の処遇改善加算を獲るためもあるが、研修に力を入れるようになる。	23 (17)	65.0	
2022	令和4	44	谷口チーム・PJL		前期の訓訓から、「収益」と「善意」のバランスを改めて考え直し、当期は黒字(「お人よし」は「優しさ」ではない)。「強くないと、生きていけない」。再び、「Creating Connections 2022」にて、当事者の友人と2人でスライド「日本語の苦手な日本人」発表。	重度障害者対応GH建設断念→しょうがい当事者1人暮らしサポート事業画策。	23 (18)	69.4	
2023	令和5	45	成瀬チーム・チーム長	・1枚の経営指針書(改) (支部で発表) ・役員研修大学修了	サービス利用者は集まっている中で、大きな赤字を経験。同友会活動に馴染みはじめるとともに、徐々に「収益化」を考えるきっかけに。	R5.1「自立生活援助事業所エール」開所。相談支援事業所の併設を前提とした計画の一環。R6.3.6菊華高校説明会参加。	30 (25)	80.0	
2024	令和6	46	鶴見チーム・チーム長補佐 地区経営指針推進担当副会長	・名1支部指針入門編運営 ・1枚の経営指針書(改) (支部委員会で発表)	結局、収益性が高い就労Bの拡大による会社安定が愁眉かつ目下の課題と考えるが、以前と利用者さんの集まり方が変化している・・・ ※「オンライン研修」ファシリテーターのアルバイトをはじめる。	R6.2相談支援事業所アンブレラ(管理者兼相談支援専門員)、R6.7就労継続支援B型事業所ジョブ・シェアード「にじいろ林檎工房」・日中一時支援事業所ウィズ開始。スタッフ減・不採算事業(エール)廃止を行ない、次期へ繋げる年度にした。	33 (27)	80.0	
2025	令和7	47	渡辺チーム 地区経営指針推進委員長	・名1支部指針入門編運営 ・経営指針作成編参加	「NPO」「福祉」に象徴される「善意」「持ち出し」を、「成瀬ならでは」でなく、アップル独自の「付加価値」ある業務として切り出すために考えてきた集大成として、新事業スタート中。	前・前々期の大赤字を機に、「支出を抑え、収入を増やす」凡事を徹底。R8.2相談支援事業所移設(瀬戸⇒守山)。R8.3.11菊華高校説明会参加。	25 (21)	82.0	
2026	令和8	48	神谷チーム 名1支部幹事(経営指針委員会)	・名1支部指針入門編運営 ・6/21経営指針発表会(自社) ・12/22入門編「方針・計画」報告(予定)	自社だけでなく、大都市郊外での利用者減問題。同時に、B型事業所は地域企業との連携が望ましいながら、多地域にまたがるFC事業所台頭や、利用者の「ひきこもり化」及びオンライン自宅作業増大による変化	アップル・シードが、「メンタル起因の課題に強く、正面から取り組む」地域の組織として、地域からより認知していただくためにも、社外からはじめて人を招いた「経営指針発表会」を開催(地縁組織、信金、精神科医、同友会名1支部指針委員等、同業、支援者)。	24 (19)		